

335-B 西尾良典 (大阪北・2003年)

新型コロナもようやく収束を迎え、社会も環境も新しく変貌しつつあります。今後はデジタル化の推進と共にSDGsに取り組み、コミュニティと協働しながら、多様化する社会のニーズに対応しなければなりません。そのために自らが変革を進め、チェンジリーダーとして、変化する環境に対応しながら社会奉仕の実現を目指します。ライオンズのブランド力を高め、活動出来るメンバーを増やすこと、影響力のある奉仕を行い、地区を活性化すること、次世代のリーダーを育成することがより良き未来の実現に重要です。

334-D 小出進 (石川県・金沢第六・1996年・74歳)

新型コロナがパンデミックを引き起こし、世界的な大きな変化が起きている中で、奉仕活動も地域から国境を越えた人道支援へと変化しています。一人の力は小さくても、点が「わ」になり、「わ」が面となって更に広がり大きな力となります。地域にとってインパクトのある奉仕団体となるよう、ガバナーとしての役割を務めます。「We Serveでつなげよう人と世界に奉仕の「わ」～Reconstruction～再構築」をスローガンに、新たな時代に適するクラブに変化することを期待しています。

334-A 木野村好己 (愛知県・春日井中央・1906年・73歳)

私は1986年にライオンズクラブに入会し、在籍37年になりました。入会時には理解しきれなかった奉仕の精神も、長い歳月を経て理解出来るようになりました。

会社は、社会やステークホルダー(利害関係者)に支えられて成り立っており、その頂点に立っているのが経営者やリーダーです。その経営能力と社会奉仕のバランスが、人格を作り、人から尊敬され、ひいては会社の成長につながります。ライオンズクラブでも、組織の成長につながる人材の育成を行っていきます。

335-C 山本忍 (滋賀県・粟東・1995年・71歳)

ガバナー・テーマを「CHANGE! 3E」としました。コロナ禍の時代を一つの転換期と捉え、「燃える・魅せる・楽しむ(Exciting・Entertainment・Enjoy)」ことの出来る活動を展開していきます。新型コロナの猛威は3年を経て、社会活動により明るく見えてきています。今も地域にはライオンズの活動を待っている人がいます。そのためにも早期に活動を再開し推進しなければなりません。メンバーの「やる気」と「士気」、そして「質」の向上を図り、地域を支える力となるよう全力で取り組んでまいります。

334-E 喜多友一 (長野県・上田城南・2000年・68歳)

世界では新型コロナの感染状況が落ち着いてきている中、日常生活を取り戻そうとしています。今、世界が変わろうとしています。また日本も変わろうと、皆が試行錯誤を重ねながら努力しています。我々ライオンズも変わらなければ、いや変えなければなりません。原点に戻り、なぜライオンズクラブの会員になったのかを思い出しましょう。感謝の気持ちを忘れずに、奉仕活動を通して仲間を増やすことが重要だと考えます。熱い情熱のあるライオンズクラブになるよう努力し、皆様と一緒に邁進してまいります。

334-B 川嶋富士雄 (三重県・四日市中央・1909年・82歳)

私は元来「シャレ者」である。派手なネクタイや背広を好んだ。周囲の人たちは「オシャレネ」と言いつつ、「顔はシャナイネ」と付け加えるのも忘れなかった。外見はともかく中身を磨かなくては。先日、生まれて初めてタキシードを着た。「007」のジェームズ・ボンドみたいだ。もちろん、顔は別だが。これを20~30年前に着たかった。若いメンバーに告げたい。地区ガバナー就任は60代に済まそう。私はこの一年、全力を捧げる覚悟だ。

「タキシード 顔はシャナイネ 遠花火」

不死翁

335-D 廣田晃一 (兵庫県・姫路中央・1998年・56歳)

私たちは100年以上にわたり「奉仕」で世界に貢献してきました。パンデミックが収束した今こそ「We Serve」の精神と「またみんなが集まって、たくさん奉仕を創っていきましょう」という思いを込めて、スローガンを「100」としました。ガバナー・テーマは「不易流行 恩送り」。今後も熱い奉仕を進化させ、その感動と感謝の全てを希望に満ちたこれからの世代に「恩送り」が出来れば、ライオンズはますます地域を照らす光になるとの思いを込めました。奉仕のインパクトに全力で邁進する所存です。

335-A 山中健 (兵庫県・芦屋・1993年・73歳)

ライオンズクラブに入会して30年。月2回の例会が待ち遠しくなるほど、ライオンズ大好き人間です。ただ前職の関係で地区役員の経験はほぼなく、戸惑いと不安を感じています。しかし幸いなことに、335複合地区内を始め35人の同期ガバナーがしっかりとした絆で結ばれた状態でスタートし、心強いです。会員増強は喫緊の課題です。「輪と話と和」輪になってよく話し合って和やかに」をガバナー・テーマに、クラブを楽しく魅力あるものにして会員減少を食い止め、皆の力で会員増強を果たし、会員満足度を上げていきましょう。

334-C 前田磨 (静岡県・三島・2002年・61歳)

経済動向や自然環境、また教育・福祉・医療分野における目まぐるしい変化の中、我々ライオンズクラブが置かれている環境も、メンバーの高齢化や地域間格差による人口減少に伴うクラブの衰退など問題山積です。地域も企業・組織も生き残るためには、環境の変化にいかに対応(順応)出来るかが鍵になると言われます。本年度我々は「変革への順応 未来を拓く『We Serve』の絆!」のスローガンの下、時代のニーズを捉え、さまざまな環境に順応し、今まで以上に積極的に奉仕事業に取り組んでいきたいと思えます。